

# 1 「青天の霹靂」・「はれわたり」の高品質安定生産

## 【概要】

- 東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核として生産者や関係機関と情報共有し、講習会や個別指導等を通して、生産者の生産意欲向上と安定生産を目指した。

## 【背景・課題】

- 「青天の霹靂」は、これまでの出荷データの分析により、生産目標を下回る生産者が固定化する傾向がみられることから、ブランド維持のためには生産者個々の作付ほ場の条件や栽培方法を確認し、改善点を指導する必要がある。
- 令和5年から本格的に作付けが始まった「はれわたり」の高品質安定生産のためには、関係機関等との密な連携により、適時適正な指導を展開する必要がある。

## 【普及指導活動の内容】

- 東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム連絡会議を開催し、関係機関と活動内容等について意識統一した。
- プロジェクトチーム現地検討会を開催し、今年の管内の水稻生育状況や病虫害の発生状況、追肥指導等について情報共有した。
- 育苗期、追肥時期、刈取時期に講習会を開催し、高温で経過していることから、飽水管理等により地温を下げる水管理や適期刈取指導を徹底した。
- 「青天の霹靂」作付者全員に栽培ポイントを示した「生産者カルテ」を配布するとともに、出荷基準を下回った生産者に対して個別指導を実施した。

## 【成果】

- 「青天の霹靂」の1等米比率は89%で、前年並みを確保した。また、昨年出荷基準を下回って個別指導を行った生産者3名は全員出荷基準を達成した。
- 「はれわたり」の1等米比率は93%で、目標の90%を上回った。

## 【対象名】

青森農協「青天の霹靂」生産者部会（32名）、青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会（2名）、(株)KAWACHORICE（7名）  
管内「はれわたり」作付者



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム現地検討会



適期刈取講習会



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム連絡会議

## 2 トマト指定産地の生産力向上

### 【概要】

- 省力化に有効な自動灌水施肥システムの導入を推進した。品種特性や天候に応じた肥培管理について指導を徹底するとともに、高温対策の必要性について啓発し、遮光技術の導入を促した。また、新規作付者等を中心とした個別巡回指導を行い、栽培技術の向上を図った。

### 【背景・課題】

- 管内のトマトは、高齢化や労働力不足等により栽培面積の減少が続いている。一方、ミニトマトは一戸当たりの栽培面積が増加傾向にあり、両品目とも省力化が課題となっている。
- 夏場の高温から裂果や軟果等の障害果が発生しており、障害回避のための技術対策や品種の切替等が必要となっている。
- ミニトマトは新規作付者が増加していることから、技術レベルの早期向上による経営安定化が急務となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- AIによる自動灌水施肥システム「ゼロアグリ」を活用した実証ほを設置し、関係機関による情報共有と管内での実用性について検討するための現地検討会を開催した。また、次年度行う2年目の実証に向けて、他県のシステム既存ユーザーとの意見交換会を行った。
- 高温に強い品種を選定するため、「りんか409」や「れおん」の品種比較ほを設置し、講習会で生育状況について情報提供したほか、高温対策として、遮光技術の導入を促した。また、「りんか409生産情報」を4回発行し、品種特性に応じた肥培管理について周知した。
- ミニトマトの新規作付者等に対して個別巡回を行い、生育状況に応じた肥培管理や誘引方法、仕立て方法等について指導した。講習会で自動かん水施肥システムの導入により、かん水や追肥に要する作業時間が大幅に削減されること等について周知した。

### 【成果】

- 自動灌水施肥システム導入者は1名増の17名となった。
- 高温対策として、遮光資材を活用した対策が有効であることが認識され、遮光対策実施者は1名増の32名となった。
- ミニトマトの単収5 t/10 a以上の生産者は1名増加し10名となった。

### 【対象名】

- 青森農協トマト部会(67名)
- 青森農協ミニトマト部会(30名)



AI自動灌水施肥システム「ゼロアグリ」



「ゼロアグリ」現地検討会



品種比較ほ